

平成17年度高等教育改革推進経費報告

動物介在活動と療法に関する教育研究プログラム

Azabu animal-assisted therapy and activities educational program

太田光明

麻布大学大学院 獣医学研究科動物応用科学専攻

Mitsuaki Ohta

Azabu University, Graduate School of Veterinary Science

Abstract. The Azabu animal-assisted therapy, AAT, and activities, AAA, educational program has been established for the postgraduate and undergraduate students since April 1, 2002, which is the first endeavor at the universities of the world. The program has been developed by Dr. Dennis C. Turner who is the visiting professor at Azabu University. This program is not only admitted as the national license for the AAT/AAA in Switzerland, but also highly estimated the quality and the effectiveness by the organizations concerning the AAT/AAA, especially in Germany, Austria, Belgium, and the United States of America. The program for the 1st students had completed in March, 2004, and the 3 evaluated students were given the certificates for the completion of the program.

The program has been continued for the 3rd and 4th students in 2005, and the lectures had been finished as follows: the instruction for the human and animal interactions, the fundamental knowledge and technique for the AAT/AAA by Dr. Dennis C. Turner and the animals in a rehabilitation facility by Mr. Takashi Uemura.

目 的

動物介在療法（AAT）ならびに活動（AAA）に関する大学レベルの教育カリキュラムを、平成17年4月に開講した。この教育研究プログラムは本学客員教授である Dennis C. Turner 博士（スイス）が1999年に完成させたドイツ語圏でのプログラムをわが国の実情に合わせて改変したものである。Turner 博士のプログラムを受講し、修了した者は、スイスでは国家資格として認定され、またドイツ語圏でも国家資格に相当するライセンスとなっている。麻布大学 AAT/AAA 教育研究プログラム（Azabu animal-assisted therapy and activities educational program）のテキストはすべて英語で記述され、また、原則として、講義も英語で行われている。

欧米先進国に比べ、10年以上も遅れをとったわが国の「人と動物の関係学」分野あるいは「AAT/AAA」分野を少しでも引き上げるには、この分野の教育システムを充実させる以外にないとの考えに基づくものである。

方 法

講師陣は、スイス（Dennis C. Turner）、ドイツ（Erhard Olbrich）、アメリカ合衆国（Susan L. Duncan, Gail F. Melson, Cindy C. Wilson, Ann R. Howie）より6名と、太田光明らから成り、主に大学院生を対象に実施されている。70時間の講義、28時間の学外実習、80時間の演習、および論文（レポート作成）を修了し、口答試問に合格した者に対し、Dennis C. Turner、太田光明、および岩橋和彦の署名を付した認定証が

発行される。

結果と考察

本教育研究プログラムは平成14年4月より開講しており、これまでに6人が修了証（認定証）を取得した。平成17年度は、三期生および四期生に対する講義および実習が行われた。四期生は、Dennis C. Turner博士、植村興氏による講義を終えた。

1. 講義

各講師の講義内容については、昨年度とほぼ同様であり、AAT/AAAについての総括的な講義は、このプログラムの開発者でもあるDennis C. Turner博士によって行われた。Dennis C. Turner教授は4月7～11日の5日間および10月の5日間の2回に分けて計10日間講義した。前半の4月においては、人と動物の関係学をはじめとし、動物たちが私たちの健康と福祉に与える効果、動物種の違いによるAAT/AAAへの有用性、対象者の病状に合わせたAATプログラム作成における留意点、動物の適切な管理方法、動物を用いることの倫理的問題について講義を行った。

後半の10月ではAAT/AAAを実施するために、より具体的なプログラム作成方法、進行方法、社会的サポートとしてのコンパニオンアニマル、学校教育における動物導入の青少年への効果、家畜や野生動物のセラピー効果、AAT/AAAの企画立案と運営について講義した。また、より具体的なAAT/AAA現場を想定したディスカッショントレーニングも行った。

講義はAAT/AAAに最もよく使用される動物種であるイヌおよびネコをはじめとし、人と動物の関係学に基づいて、それぞれの動物種の家畜化の歴史、さらにそれらの動物たちと人との現代に至るまでの関係の変化、それぞれの動物種における感覚、発達、コミュニケーション方法などの行動学的特徴とそれらの動物種間での比較など、多岐に渡った内容であった。さらに、動物に対する愛着、社会的サポートの概念、ペットロスによる影響といった観点からも、人と動物との総合的な関係を論じ、人が動物から受ける様々な影響や、AAT/AAAにおけるこれらの動物の有用性について教示された。

また、現在までに行われてきたAATの事例とし

て精神的疾患、ダウン症候群、ADHD（注意欠陥多動性障害）、およびCD（行為傷害）を例に挙げ、それぞれの具体的な動物介在療法と効果について紹介した。こうした事例を踏まえ、AAT/AAAセッションにおける動物の選別、動物に対する倫理的側面、ストレス等を考慮した各動物種にとっての適切な飼育方法についての講義があった。また、学校教育において動物を導入することの有用性として、Animal Assisted Education（AAE）についての講義も行われた。

さらに、より実践的な内容として、AAT/AAAを行う上で対象者をサポートする医師や作業療法士、心理療法士、介在動物をサポートする獣医師との連携を考えたチームを構成することの重要性や、セッションの実施場所の選別やプログラム作成方法、セッションの評価方法について講義された。最終的にこれらの講義内容をふまえたディスカッショントレーニングとして、学生たちが実際に様々な状況下におけるAAT/AAA実施を想定しシミュレーションを行った。

平成17年7月には、植村興氏により、「更生活動における動物」と題し、保護司である自身の経験から日本での少年院教育に関する講義が行われた。また、アメリカの刑務所内における犬を用いた更生プログラム、プロジェクト・プーチ責任者ジョアン・ドルトン氏を迎えた講演、英国SCAS（The Society for Companion Animal Studies）代表エリザベス・オームロッド氏、及び全代表メアリー・ウェイハム氏を迎えた講演について総括的に講義し、その中で、刑務所内におけるペット飼育がもたらした収容者への精神的変化とその効果、さらに、わが国の更生施設における動物導入の必要性、及び実行に伴う効果と問題点についての講義があった。

2. 実習

平成17年6月～8月の3ヶ月間、本プログラム受講者のうち2名が、アメリカ合衆国ニューヨーク州にあるGreen Chimneysにインターンとして留学した。Green Chimneysは、1974年に創設され、160エーカーの土地に、子どもたちが生活する寮、学校、クリニック、そしてそれらに隣接して農場や野生動

物保護センター、畑などがあり、350頭もの動物たちが人間とともに暮らしている。Green Chimneysにいる子どもたちは、情緒不安定や学習障害、暴力的な態度などのために、家庭や学校にはいられなくなった子どもたちで、その多くは、崩壊した家庭に育ったり、虐待を受けたり、親を失い里親家庭を転々とするなどで心に深い傷を負っている。そんな子どもたちをソーシャルワーカーや、心理学者、教育者などがサポートしながら、いわゆる動物介在療法を行なっている。

インターンでは、TCIトレーニング（Therapeutic Crisis Intervention）という、感情のコントロールがきかなくなった子どもをどのように落ち着かせるかの講義や、ロールプレイを含めた実習を3日間受けた。また、担当の子どもが割り当てられ、毎日それらの子どもたちと一緒に動物の世話を実際に行なう中で、それぞれの子どもに合った仕事内容を考え、接し方を学ぶことができた。

要 約

平成14年より行っている動物介在活動・療法（AAT/AAA）教育プログラムは、行動学者、人と動物の関係学の研究者、動物福祉の研究者、獣医師、心理学者、精神科医、心理療法士、ソーシャルワーカー、教育学者らが集まって、AAT/AAAに関わる人材を育てるための継続的な教育カリキュラムで、2

年間で修了する。このプログラムは、Dennis C. Turner博士（Institute for Applied Ethology and Animal Psychology所長、スイス、本学客員教授）によって開発されたもので、1998年に行われたプラハでのIAHAIO（International Association of Human - Animal Interaction Organizations）国際会議で発表され、1999年の4月に第1期生をスイスで迎え、現在はアメリカをはじめ国際的に認知されている。本学では、Turner博士を含む欧米の教育・研究者6名と本学教員からなる講師陣を構成し、獣医学部ならびに獣医学研究科の研究教育カリキュラムへの導入を図った。講義（英語）は、心理学、人と動物の関係学、人と動物に関する行動学、動物の心理学、AAT/AAAに携わる動物の適切なケア、AAT/AAAに関する倫理や危機管理、患者自身の安全管理、人畜共通感染症、動物のトレーニング方法、産業動物や野生動物を用いた作業療法など多岐にわたる。また、精神科病院や刑務所（アメリカ、カナダなど）の見学、学校への訪問など学外実習も含まれている。2年間の間に、課題レポート（英語）の提出があり、また最終試験は口答試問（英語）によって行われる。

このプログラムを修了することによって得た認定証は、日本はもちろん、ヨーロッパ各国および北米でも通用するものであり、取得者の今後の活躍が期待される。